

学位論文審査結果の要旨

博士課程 甲	第 号	氏 名	五田 嘉倫
審 査 委 員		主 査 氏 名	保田昌宏
		副 査 氏 名	東美菜子
		副 査 氏 名	永延清和
<p>[論文題名]</p> <p>Usefulness of Computed Tomography for cryptorchidism in bulls. 牛の潜在精巣に対する CT 検査の有用性 Journal of Veterinary Medical Science, 84(10): 1430-1436, 2022, DOI:10.1292/jvms.22-0124</p> <p>[要 旨]</p> <p>牛における潜在精巣の具体的な位置に関する詳細な報告はなく、雄牛の潜在精巣を可視化する新たなツールの開発が望まれていた。そこで本研究では、34 症例 40 個の潜在精巣の CT 所見をまとめることにより、雄牛の潜在精巣の診断における CT の有効性を評価した。本研究の腹部潜在精巣の検出率は高く（全検出率：64.5%）、特に左側潜在精巣（82.6%）は右側潜在精巣（12.5%）と比較して高かった（$p < 0.05$）。雄牛の潜在精巣は、片側性で左側に位置することが多かった。したがって、CT 検査は雄牛の多くの潜在精巣の発見に有用であると考えられる。また、左側の発生率が高い理由は不明であるが、左右の発見率の差は精巣の大きさではなく、精巣が位置する周囲の解剖学的な違いに起因すると考えられた。さらに、成長期の黒毛和牛は、加齢とともに精巣重量、長軸、精細管径、精細管率（単位面積当たりの精細管の割合）が増加することから、CT 値の増加は雄牛の成長に伴う精巣の発達によるものである可能性が示唆された。一方、CT 値および長軸実測値は、停留部位との有意な関連を示さなかった。このことから、潜在精巣は下降とともに成長するのではなく、正常な精巣と同様に個体の成長（加齢）とともに成長することが示唆された。さらに、今回の結果は、CT 画像上の潜在精巣の長軸測定値と実際の長軸測定値との間に有意な相関を示したことから、CT 検査による潜在精巣の長軸測定値は、潜在精巣の実際の大きさを推定する上で有用である可能性が示唆された。本研究は、CT 検査が潜在精巣を有する雄牛の診断および治療に有用であることを示唆した。</p>			